

読書活動充実への試み

A trial to expand reading activity

国語科 戸谷 順子

要 旨

本稿は読書の楽しさを感じ、より一層の読書活動充実への契機とするよう試みた単元「おすすめの本（作品）を紹介しよう」の授業と、この単元後の本校図書室への影響を報告するものである。

指導のねらいとして、生徒が「自己の読書活動をふり返る」中で「(作品が) 自己に与えた影響に気づく」場面を設定することにある。その一方で自己の愛読作品を他者に伝えるためにスピーチやPOPカード作りなどの表現活動を取り入れることで、生徒の「表現しようとする力」や「他者を受容し、理解しようとする姿勢や態度」、更にスピーチ後の相互交流を経て「自己の表現を省察する力」を育成する場を設けようと試みた。

第3学年の生徒は授業者が3年間担当した学年であるので、3年間様々な場面で身に付けた彼らの表現活動、話し合いの力を活用した場面を意図的に組み込んでみた。また、卒業制作としてPOPカードを制作し、それを本校図書室との連携を図り、図書室に寄贈することで後輩（下級生）たちの読書活動に貢献することを願った。

キーワード：読書活動 表現活動 スピーチ 相互交流 POPカード 図書室との連携

I はじめに

「読書離れ」が世間で聞かれるようになって久しい。文部科学省によれば、子どもの読書活動の「現状」として、「テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されています。」とある（註1）。このような昨今の状況もあり、図書室や図書館、書店に生徒たちが足を運び、本を手にする機会、読書に関心を持つ機会を国語科の授業の中で設けることを考えた。

そこで中学校生活3年間の国語科授業の集大成として、読書活動に焦点を当てた授業を試み、生徒たちが「本って面白いな」「読書っていいな」と感じ、彼らの読書活動の充実を図ることをねらいとした授業を試みたのが本単元である。

II 授業の構想

1. 授業のねらい

言語活動：おすすめの本（作品）を互いに紹介し合うとともに自己の読書活動をふり返る。

(1) 日々の読書活動を他者に紹介するため、その作品を深く読み込む。

(2) 作成した作品紹介を他者（含、他学年の生徒）に紹介する。

(3) 自己の読書活動をふり返り、様々な作品世界を知ることによって自己の読書の幅を広げる。

学習指導要領においては、[C 読むこと] 第3年学年目標として「目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる」が掲げられ、また「オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする」、言語活動例「ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること」とある。このことを視野に入れ、3年間生徒たちと共に様々な単元で実践してきた表現活動を取り入れた授業を試みた。

2. 授業の展開

単元名 「おすすめの本（作品）を紹介しよう」

第1時 他者にすすめたい作品を改めてよく知ろう

第2時 作品を紹介する方法を知ろう（本校司書との授業）

第3時 おすすめ作品中間報告会

第4時 作品紹介をより良いものにしよう（平成24年度本校公開研究会にて授業公開）

第5時 おすすめ作品発表会

第6時 作品紹介を完成させよう（卒業制作としてのPOPカード作り）

第7時 POPカード鑑賞会

3. 本單元における「探究の楽しさが駆動する学びの創造」の工夫

- ・各生徒が選んだ作品をもう一度熟読し、作品の深部・主題を読み取るためにも、作品の山場はどこか、登場人物同士の関わりやそれによって起こる登場人物の心情変化や成長は何かを読み取る課題を与える。 〈課題の意識化〉
- ・作品発表会の前（途中）段階で中間報告会を学習班で行い、その後意見交換の機会を持つ。 〈表現の場が共有の場となる〉 〈相互交流〉
- ・他者の作品紹介（発表）を聴き、自己の発表に活かす。 〈省察を次の探究につなげる〉
- ・表現活動（発表）が「紹介する作品の再認識」の側面と「卒業制作」の側面、二つの側面を持つことを意識させる。 〈課題の明確化〉 〈互恵的な学びの場〉

4. 図書室司書への協力依頼

本校図書室野村朝子司書との授業も計画したのは、生徒が作品を紹介するにあたり、図書室の状況や司書の様々なノウハウ、「本を借りてもらうための工夫」などを学ぶ意図があった。授業前に野村司書に協力を依頼しておいたことは以下の通りである。

- ・生徒の読書活動をふり返るための資料（生徒個人の貸し出し記録）の提示
- ・図書室運営の工夫などのレクチャー
- ・POPカード作りのアドバイス、完成したPOPカード展示スペースの提供
- ・本校図書室便りの活用（生徒による作品紹介の掲載）

Ⅲ 授業の実践報告

1. 紹介したい作品をよりよく知る（第1時）

他者に作品をすすめるためにはその作品の良さを生徒自身が認識し、他者に伝えられるようにする必要がある。「楽しい」「面白い」という感覚的な作品の魅力をより具体的に、説得力を持って伝えるために、まずは教科書（文部科学省検定済教科書 東京書籍『新しい国語3』）P238～P240「創造的な言葉の力－鑑賞する力 人物どうしの関係に着目する」を活用した。

登場人物の特徴が対照的に描かれることによる効果、その人物が作品全体の中で担う役割、人物同士の関わりやある出来事によって起こる人物の変化を読み取ることが作品の深い理解につながることを生徒たちに捉えさせた。

生徒たちにはここで学んだことを踏まえ、紹介したい作品を先に述べた視点からもう一度読み直すことを提案した。なお、紹介する作品についてはこの単元に入る前の授業予告で「人物同士の関係が描かれている物語・小説」を今回は取り上げるよう生徒に伝えてある。

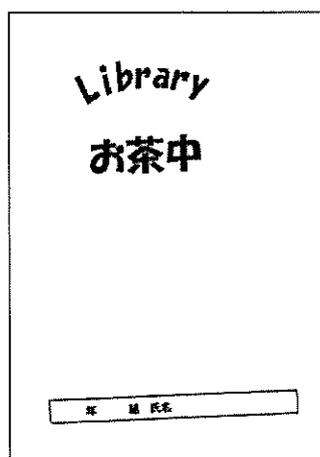
2. 司書との授業（第2時）

作品をより深く読み込む提案をした上で、野村司書との授業を試みた。野村司書がワークシートとして用意した「お茶中 Library」（資料1～8）を活用しながら授業が進められた。

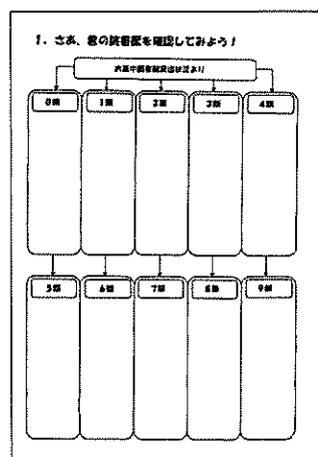
まず野村司書より生徒一人ひとりに自分の3年間の図書貸出状況（貸出一覧）を渡し、各自が自己の読書歴をふり返った。その後、貸出一覧を見ながら日本十進分類表分類番号沿って、自分の貸出履歴を分類する（資料2）ことで、生徒は自分の読書傾向に気づく。次に最も多く借りている分野（類・分類番号）を書き出すことで自己の好みや読書傾向をふり返った（資料3）。また、生徒と野村司書とが本について相談などのやりとりができるページもある（資料5）。図書室以外での読書歴もふり返ることができるようになっている（資料6）。

次に、実際に図書室内を観察しつつ「本を読んでもらうための工夫」を生徒たちが話し合った。また、いくつかのPOPカードを見ながら「POPカード作りのポイント」などを学んだ。「お茶中 Library」はこの授業のためだけでなく、その後も司書と生徒とでやりとりをするものとして配布された。

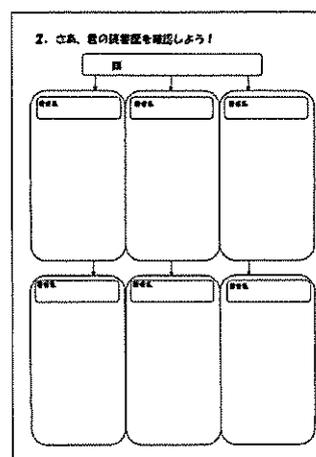
資料1 (表紙)



資料2



資料3



読みたい度 70% = 機会があったら読んでもいいかな。
 読みたい度 50% = 「読んでみて」と言われても迷うかも。
 (既にその作品を読んでいる場合も、もう一度すぐに読みたいと思ったら
 「読みたい度100%」にして良いと生徒に伝えた)

4. 話し合いを通じてよりよい作品紹介にしよう (第4時)

第4時は平成24年本校公開研究会において公開した授業である。以下、その指導案である。

| | | |
|---|--|---|
| (1) 本時の目標 | | |
| ①聞き取った他者の作品紹介の優れた点などについて話し合い、自分の表現に活かす。(A(2)ウ) | | |
| ②作品紹介を互いに読み合い、評価した上でよりよい作品紹介になるよう文章全体を整える。 (B(1)エ) | | |
| (2) 学習の展開 | | |
| | 主な学習内容と活動 | 指導上の工夫・配慮 |
| 課題設定 | ・前時に行った「学習班同士の報告会」の感想を生徒同士で交流し合う。 ・本時は前時の報告会をうけ、互いの工夫を知り、自分自身の発表をよりよいものにしていく時間であることを知る。 | ・他者との対話から授業をスタートさせる。この後のグループでの話し合いで意見を出しやすい雰囲気を作る。 ・「卒業制作」の意味もある活動であることを知らせる。 |
| 課題追究 | ・前時の発表で工夫が感じられたものや印象に残っているものを学習班で話し合う。 ・なぜそれらの発表が工夫があり、印象に残るものだったのか考える。 | ・全員が話し合いに意欲的に取り組めるよう、声かけや机間指導を行う。 ・前時で各自が付けた「読みたい度」を参考にして意見を述べるよう促す。 |
| 表現・省察 | ・クラス全体で工夫のある、印象に残る発表について述べ合う。 ・学習班の中で前時の発表(自分たちの発表)を振り返る。互いに気づいた点などを伝え合う。 | ・改善点だけでなく良かった点についても触れるよう導く。 ・自分の発表を2度聞いている仲間からのアドバイスを活かすよう声をかける。 |
| 課題追究 | ・次時のクラス内発表会に向け、自己の発表内容をよりよいものにしていくためには、どう作品紹介に工夫を加えればいいのか考える。 ・次時の発表会について説明を聞く。 | ・どうしたら「読みたい度」が増すか、先ほど挙げた工夫のある例・印象に残る例、学習班の仲間から得たアドバイスを参考にして考えるよう声をかける。 ・スピーチを行う際の留意点を確認する。 |
| (3) 本時の評価 | | |
| ①聞き取った他者の作品紹介の優れた点や工夫点などに気づき、話し合いを通じて自分の表現に活かしている。 | | |
| ②作品紹介を互いに読み合い、評価し合った上で「読みたい度」が上がる作品紹介になるよう文章全体を整えている。 | | |

学習班で話し合う場面では、自分たちで進行役を決めることと相手へのアドバイスをより具体的に話すことを指示した。生徒たちは与えられた時間をうまく使い、互いのスピーチについて「あらすじを話す割合」「構成」「人物について」「シリーズ物の場合はどう説明するか」など互いに有効なアドバイスをしていた。

5. クラス全体での作品紹介（第5時）

学習班でのスピーチとその後の話し合いを経て、生徒たちはもう一度スピーチ（作品紹介）の内容、伝え方を再検討することを課題とした。そしてここからは「話す」作品紹介から「書く」作品紹介であるPOPカード作りを意識しつつ、聞き手を引きつける一言（POPカードでキャッチコピーとして使いたいフレーズ）を加えた上で、クラス全員の前でスピーチを行った。ここでも学習班でのスピーチ同様、一人90秒間のスピーチとし、聞き手側は配布されたワークシート（資料12）に「読みたい度（%）」を付け、メモ欄に聞き取ったスピーチの要点を記入することとした。

資料12

| 「おすすめの本(作品)紹介しよう」 相互評価用紙 | | | | |
|--------------------------|------------------|--------------|-------|----|
| 氏名 | 作品名 | 著者名 | 読みたい度 | メモ |
| 1 | オイアウエ漂流記 | 荻原浩 | 5% | |
| 2 | Fate Zero | 虚淵玄 (うろぶちげん) | 5% | |
| 3 | 妖怪博士 | 江戸川乱歩 | 5% | |
| 4 | 偏差値70の野球部 | 松尾清貴 | 5% | |
| 5 | 夕映え天使 | 浅田次郎 | 5% | |
| 6 | 地下鉄(外口)に乗って | 浅田次郎 | 5% | |
| 7 | かう丸 | 大島秀雄 | 5% | |
| 8 | 十五少年漂流記 | ついで | 5% | |
| 9 | 浮城物語 | 横溝重彦 | 5% | |
| 10 | 選出ゲーム | 新藤兼人 | 5% | |
| 11 | ワンダフルカン | フーゴ | 5% | |
| 12 | 名のないシロ | 山田孝介 | 5% | |
| 13 | リアルム | 山田孝介 | 5% | |
| 14 | 風女の電燈 その3 | 斎藤孝子 | 5% | |
| 15 | 芥川 | 芥川龍之介 | 5% | |
| 16 | カモメ | 中野実 | 5% | |
| 17 | フロントライン | たけまこと | 5% | |
| 18 | そで | たけまこと | 5% | |
| 19 | 針州ものがたり | 斎藤孝子 | 5% | |
| 20 | リストラーの魔法の杖 | アキラ・カネコ | 5% | |
| 21 | GOSICK Ⅱ 探偵小説家の花 | 櫻庭一樹 | 5% | |
| 22 | Another | 綾辻行人 | 5% | |
| 23 | 健全部事件 | 藤村みゆき | 5% | |
| 24 | 妖精のふた | 上野真由子 | 5% | |
| 25 | つばのふた | 山田孝介 | 5% | |
| 26 | ライニー・ライニー・ハッピー | 浅田次郎 | 5% | |
| 27 | 手紙屋 蓮葉 | 藤村みゆき | 5% | |
| 28 | 風の魔女が死んだ | 浅田次郎 | 5% | |
| 29 | ランナー | 浅田次郎 | 5% | |
| 30 | 浪島電燈 | 浅田次郎 | 5% | |



(写真：クラスでスピーチを行っている様子)

第3学年の生徒125人が他者にすすめたいと挙げた作品の一覧は以下の通りである（資料13～16）。POPカードと書籍を授業後に図書室に展示するため、生徒が挙げた作品一覧を司書に渡し、本の準備を進めてもらった。図書室にない作品は新たに購入し、図書室に置いてもらうことができた。125人が選んだ作品に若干の重複はあるが、その中で新たにこの単元のために購入してもらった作品は全体の1/3であり、2/3は既に図書室に置かれている作品であった。

なお、本校公開研究会で参観者から「この単元によって（文学作品を数十冊購入することで）図書室の蔵書のバランスは崩れないのか」という質問をいただいた。そのことを野村司書に確認したところ、本校では自主研究を行っているため文学以外の蔵書も他校に比べると多く、この授業実践のために文学作品を購入しても蔵書が文学に偏ることはないという回答を得た。

資料13 3年松組 (出席番号・作品名・作者名)

| | | |
|---|-----------|--------------|
| 1 | オイアウエ漂流記 | 荻原浩 |
| 2 | Fate Zero | 虚淵玄 (うろぶちげん) |
| 3 | 妖怪博士 | 江戸川乱歩 |
| 4 | 偏差値70の野球部 | 松尾清貴 |
| 5 | 夕映え天使 | 浅田次郎 |

| | | |
|----|---------------------------|--------------------|
| 6 | 地下鉄（メトロ）に乗って | 浅田次郎 |
| 7 | カラフル | 森絵都 |
| 8 | 十五少年漂流記 | ヴェルヌ |
| 9 | 探偵倶楽部 | 東野圭吾 |
| 21 | 退出ゲーム | 初野晴 |
| 22 | タラ・ダンカン | ソフィー・オドゥワンエニマミコニアン |
| 23 | 名のないシシャ | 山田悠介 |
| 24 | リズム | 森絵都 |
| 25 | 魔女の宅急便 その3 | 角野栄子 |
| 26 | 氷菓 | 米沢穂信 |
| 27 | うそうそ | 畠中恵 |
| 29 | アントキノイノチ | さだまさし |
| 30 | モモ | ミヒヤエル・エンデ |
| 31 | 羽州ものがたり | 菅野雪虫 |
| 32 | クリストファーの魔法の旅 | ダイアナ・ウィン・ジョーンズ |
| 33 | GOSICK VI 仮面舞踏会の夜 | 桜庭一樹 |
| 34 | A nother | 綾辻行人 |
| 35 | 蒲生邸事件 | 宮部みゆき |
| 36 | 狐笛のかなた | 上橋菜穂子 |
| 37 | つきのふね | 森絵都 |
| 38 | タイニー・タイニー・ハッピー | 飛鳥井千砂 |
| 39 | 手紙屋 蛍雪篇 ～私の受験勉強を変えた十通の手紙～ | 喜多川泰 |
| 40 | 西の魔女が死んだ | 梨木香歩 |
| 41 | ランナー | あさのあつこ |
| 42 | 阪急電車 | 有川浩 |

資料14 3年蘭組

| | | |
|----|---------------|-----------|
| 1 | トムソーヤーの冒険 | マーク・トゥエイン |
| 2 | ハチ公物語 | 新藤兼人 |
| 3 | THE MANZAI | あさのあつこ |
| 4 | 三国志 | 吉川英治 |
| 5 | バッテリー | あさのあつこ |
| 6 | モッキンポット師 ふたたび | 井上ひさし |
| 7 | 三匹のおっさん | 有川浩 |
| 8 | シャトゥーンヒグマの森 | 増田俊也 |
| 9 | 一瞬の風になれ | 佐藤多佳子 |
| 10 | 関ヶ原 | 司馬遼太郎 |
| 21 | チア男子！！ | 朝井リョウ |
| 22 | スキップ | 北村薫 |
| 23 | おれは非情勤 | 東野圭吾 |
| 24 | 永遠の出口 | 森絵都 |
| 25 | 永遠のゼロ | 百田尚樹 |

| | | |
|----|---------------|-----------|
| 26 | ブランケットキャッツ | 重松清 |
| 27 | G O | 金城一紀 |
| 28 | あらしのよるに | きむらゆういち |
| 29 | 奇巖城 | モーリス・ルブラン |
| 30 | グラスホッパー | 伊坂幸太郎 |
| 31 | 浜村渚の計算ノート | 青柳碧人 |
| 32 | 西の魔女が死んだ | 梨木香歩 |
| 33 | 精霊の守り人 | 上橋菜穂子 |
| 34 | ミッキーマウスの憂鬱 | 松岡圭祐 |
| 35 | 涙そうそう | 吉田雄生 |
| 36 | きみの友だち | 重松清 |
| 37 | 少女 | 湊かなえ |
| 38 | 絶望センチメンタル | 朽葉屋周太郎 |
| 39 | ブンナよ、木からおりてこい | 水上勉 |
| 40 | ラベンダー | あいほらひろゆき |
| 41 | D I V E ! ! | 森絵都 |

資料15 3年菊組

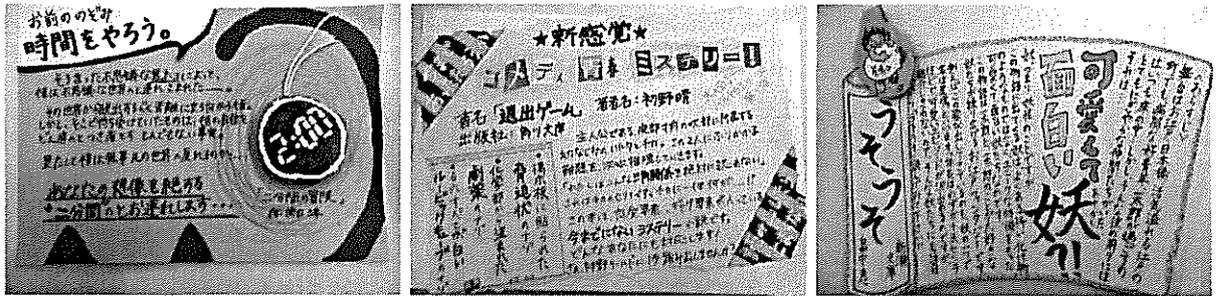
| | | |
|----|------------------------------|--------------|
| 1 | クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言使い | 西尾維新 |
| 2 | N O . 6 | あさのあつこ |
| 3 | 西の魔女が死んだ | 梨木香歩 |
| 4 | 永遠のゼロ | 百田尚樹 |
| 5 | レッドムーン・ショック スポートニクと宇宙時代のはじまり | マシュー・ブレンジスキー |
| 6 | 博士の愛した数式 | 小川洋子 |
| 7 | ヘブン | 川上未映子 |
| 8 | 義経 | 司馬遼太郎 |
| 9 | D U S T 特別法第011条 | 山田悠介 |
| 10 | 陽気なギャング地球を回す | 伊坂幸太郎 |
| 11 | 13階段 | 高野和明 |
| 21 | 4 T E E N | 石田衣良 |
| 22 | 阿Q正伝 | 魯迅 (竹内好 訳) |
| 23 | モニタールーム | 山田悠介 |
| 24 | モモ | ミヒャエル・エンデ |
| 25 | カラフル | 森絵都 |
| 26 | タイムカプセル | 折原一 |
| 27 | パスワードはひ・み・つ | 松原秀行 |
| 28 | 塩の街 | 有川浩 |
| 29 | モニタールーム | 山田悠介 |
| 30 | おおかみこどもの雨と雪 | 細田守 |
| 31 | 南九州殺人迷路 | 西村京太郎 |
| 32 | 裏庭 | 梨木香歩 |
| 33 | ゲド戦記 | ル・グウィン |

| | | |
|----|-------------|------|
| 34 | 鹿男あをによし | 万城目学 |
| 35 | とんび | 重松清 |
| 36 | いつもの朝に | 今邑彩 |
| 37 | 王様ゲーム | 金沢伸明 |
| 38 | 真夜中のパン屋さん | 大沼紀子 |
| 39 | セーラー服と機関銃 | 赤川次郎 |
| 40 | D I V E ! ! | 森絵都 |
| 41 | 夢をかなえるゾウ | 水野敬也 |

資料16 3年梅組

| | | |
|----|--------------------------|------------|
| 1 | 四畳半神話体系 | 森見登美彦 |
| 2 | 失はれる物語 | 乙一 |
| 3 | サッカーボーイズ13歳 ～雨上がりのグラウンド～ | はらだみずき |
| 4 | ホームレス中学生 | 田村裕 |
| 5 | コンビニたそがれ堂 | 村山早紀 |
| 6 | それからの三国志 | 内田重久 |
| 7 | クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言使い | 西尾維新 |
| 8 | 夜は短し歩けよ乙女 | 森見登美彦 |
| 9 | ホームレス中学生 | 田村裕 |
| 10 | ウォーリアーズ ファイヤーポー野生にかえる | エリン・ハンター |
| 11 | THE MANZAI | あさのあつこ |
| 21 | 放課後 | 東野圭吾 |
| 22 | 阪急電車 | 有川浩 |
| 23 | 麒麟の翼 | 東野圭吾 |
| 24 | 空より高く | 重松清 |
| 25 | 君のともだち | 重松清 |
| 26 | 舟を編む | 三浦しをん |
| 27 | 図書館戦争 | 有川浩 |
| 28 | コンビニたそがれ堂 ～奇跡の招待状～ | 村山早紀 |
| 29 | 永遠の出口 | 森絵都 |
| 30 | カラフル | 森絵都 |
| 31 | 西の魔女が死んだ | 梨木香歩 |
| 32 | ツナグ | 辻村深月 |
| 33 | ビブリア古書堂の事件手帖 | 三上延 |
| 34 | 少年少女飛行倶楽部 | 加納朋子 |
| 35 | わん🐾くら | 粥川みどり |
| 36 | ここに死体を捨てないでください! | 東川篤哉 |
| 37 | 小学五年生 | 重松清 |
| 38 | 二分間の冒険 | 岡田淳 |
| 39 | 五体不満足 | 乙武洋匡 |
| 40 | スイッチを押すとき | 山田悠介 |
| 41 | ふたりのロッセ | エーリヒ・ケストナー |

て読みたくなかったな)」と思うカードを3つ選んだ(投票した)。授業者がその結果を集計し、選ばれた生徒のPOPカードは(全員分図書室に展示するが)図書室入り口の正面、最も目立つところに置くという特典を投票後に示した。選ばれた生徒たちは「センターになれた」と言って喜んでいました。



(写真：生徒が作ったPOPカード)

7. 生徒の感想

- ・お気に入りの本がいくつかあって、絞るのに一苦労しました。どう紹介すれば印象に残るか、読みたいと思ってくれるかを考えてスピーチ原稿を作るのも大変でした。スピーチは大成功とは言えませんでした。皆私の紹介した本を読みたいと思ってくれたみたいなので嬉しかったです。
- ・その本の魅力を分かりやすく相手に使えるという目的でお気に入りの本を読み直してみると、自分がその本のどこが好きなのか分かったり、新たな発見があって面白かったです。クラスメイトの発表を聞いてみると、みな目の付け所が面白くて、その本に興味を持ったり、読んだことのあった本でも新たに魅力を教えてもらったりと楽しかったです。
- ・日頃から読書はしていましたが、その本の魅力を分かりやすく、そして興味を持ってもらえるように紹介するのは難しかったです。スピーチでは自分が選んだ本の魅力を十分伝えられなかったところもありますが、POPカードにするときは少し直して作ることができました。また、他の人のスピーチやカードを見て、いろいろな本に興味を持ちました。本や読書について深く考えるよい機会になりました。「他者の視点・立場で考える」ということは大切だということも学びました。
- ・自分の好きな本を今まで以上に深く読み込むことができる良い機会だったし、クラスの人達がどんな本が好きなのか知ることができました。POPカード作りではレイアウトの仕方なども学ぶことができ、図書館や本屋さんに行ってみるのが楽しみになりました。
- ・私はもともと本を読む方ではないのですが、これがきっかけで色々な本に出会いたいと思いました。私自身も自分の好きな本の魅力を皆に知ってもらいたいと思って伝えることの大切さを知りました。図書室に行って、自分の紹介した本が(貸し出されて)ないと、何だか嬉しくなりました。
- ・自分のおすすめの本を紹介し、他の人のおすすめの本も知ることができた。本の紹介と同時にPOPカードも作って図書室に飾ってあるが、それを見て私の本を借りてくれた子が別の子に「この本、面白いよ」とすすめていて、私も嬉しくなりましたし、もっといろいろな人にこの本が広まればいいなあと思った。他の人のPOPカードを見ることで私の読書の幅が広がり、世界が広がった気がする。本で人と人がつながることができることを感じることで嬉しかった。

IV 図書室で見られた読書活動の影響

1. POPカード展示

本単元学習後、12月初旬から3年生全員のPOPカードを本校図書室で展示、公開してもらうこと

資料18はPOPカード展示前(2012.4.01～2012.11.30)の貸出ランキング、資料12はPOPカード展示後(2012.12.01～2013.2.28)の貸出ランキングである。両者を比べてみるとPOPカード展示前はランキング30位(49作品)中、3年生が紹介した作品は5作品だったが、POPカード展示後はランキング21位(48作品)のうち約半数の22作品が3年生が紹介した作品がランクインしている。POPカード展示が本校生徒の本の貸出に大きな効果をもたらしたと言えるであろう。

V 成果と今後の課題

今回、生徒の読書活動を充実させることをねらいとした授業展開を試みた。野村司書作成の「お茶中Library」を用いることで自己の読書活動をふり返ることができた。また、表現活動(スピーチ)を取り入れ、互いのスピーチ内容についてグループで話し合い、自己の表現活動を省察する場とした。最後に、この取り組みのまとめとしてPOPカードづくりを行った。

「個」で取り組む作業になりがちな読書活動やPOPカードづくりであるが、その中にスピーチ活動や話し合いを入れることで、他者に関心を持ち、自己を高めるために相互交流をしながら授業を構成した。また、卒業制作の意味も持つPOPカードを、他者との交流をしながらよりよいものにし、全員のPOPカードを図書室に展示することができたことは授業者だけでなく生徒にとっても意義は大きい。今回の授業では野村司書の多大なる協力も得られ、生徒の読書活動充実のための端緒をつかむことができたと感じている。

ただ、見えてきた課題もある。生徒の貸出履歴を見ると、3年間で貸出冊数がひと桁の生徒がいた。今回の授業は3年生の秋に行ったが、なるべく早い段階で(できれば1年生で)読書活動を扱った授業展開を試みる必要がある。また、この授業実践後、生徒の読書の幅が広がったかを確認することができなかった。生徒同士が本について話す場面を見聞きすることが増えたが、それがどのように読書活動につながったかを追跡調査できるとよい。さらに、今回は人物関係に焦点を当てて作品紹介を練るよう指導したため、生徒には物語・小説から作品を選ぶよう最初に指示をした。今後、物語・小説以外の作品紹介の機会を設けたいと考えている。

以上の課題をどのようにクリアしていくか、また、読書活動の充実・図書室の更なる活性化を生むために国語科としてどのような実践ができるか、今後も試行錯誤しながら取り組んでいきたい。

最後に、本校司書の野村朝子氏には様々な面で快くご協力いただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。

註1：文部科学省「子供の読書活動推進ホームページ」には「平成14年5月に行われた調査(社団法人全国学校図書館協議会による)によれば、児童生徒の1ヶ月の平均読書冊数は、小学生が7.5冊、中学生が2.5冊、高校生が1.5冊、また、1冊も読まなかった子どもたちの割合は小学生9%、中学生33%、高校生56%となっており、中学校以降極端に読書量が減少しています。」との指摘がある。さらに「平成12年に行われた経済協力開発機構(OECD)生徒の学習到達度調査によれば、「趣味としての読書をしな」と答えた生徒は、OECD平均では31.7%ですが、日本では55%となっており、「どうしても読まなければならないときしか、本は読まない」と答えた生徒は、OECD平均では12.6%であるが、日本では22%」とある。(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/suisin/index.htm 2013.3.30確認)